

MARKET ANGLE in LIVING

FITNESS MAIL

APRIL
2021

マーケッターが市場の動向を切り裂く、インテリジェンス・ペーパー

*The influence of corona
Of the people in the continuation
Exploring changes in consciousness.*

コロナの影響が 続く中での人々の意識の 変化を探る

新型コロナウイルス対策を行う暮らしが
はじまり1年以上がたった。
少しずつコロナウイルス流行前の日常が
戻りつつあるが、人々の動向という視点で
見るとどうなのか？
コロナ対策がきちんと継続することで
ジム利用者が増えていくのか
その点を探っていききたい。

ユニフィット社員が最新「バズ」リ情報を切り抜くコラム

Buzz clipping

花粉対策

まだまだ花粉が飛び交う季節
万全の対策を!!

Unifit

www.unifit.co.jp

TAKE FREE

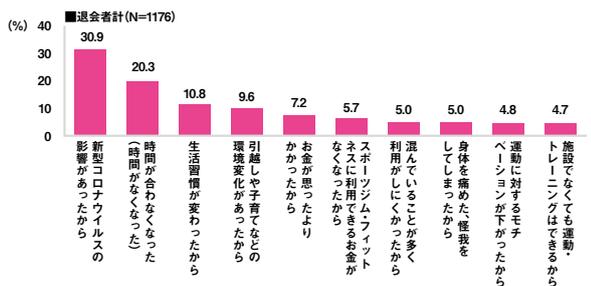
Corona concerns still continue. Is the key to success an infectious disease control that is too thorough? 未だに続くコロナ懸念。成功のカギは徹底しすぎた感染症対策？

新型コロナウイルスというワードが世に出回り始めてから1年が経過しようとしている。
既に世の中では「withコロナ」は当たり前となっているが、
いまだにフィットネスクラブに対する懸念は大きい。
そんな中で成功の鍵はどこにあるのだろうか。

未だにコロナ懸念が拭いきれず…

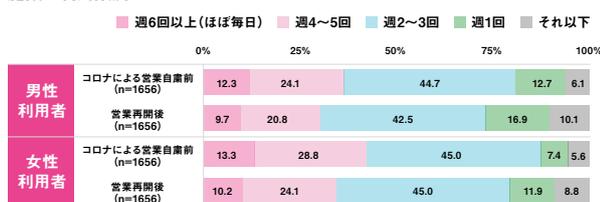
世の中はすっかり「withコロナ」が常態化しているが、そんな中でフィットネス業界については未だコロナに対する懸念が大きい。実際に未だにコロナの影響が大きいことはデータが示している。2020年11月の調査によると、3年以内にフィットネスクラブに通い、1年以内に辞めた人の約30%が「新型コロナウイルスの影響があったから」と回答(参考①)。加えて現利用者のコロナ前とコロナ禍での利用頻度を比較すると「週4回以上通っている」と回答した人の割合は男性が5.9ポイント減。女性は7.7ポイント減と、男女ともに減少している(参考②)。では未だにコロナ懸念が拭いきれない状況の中で復調の鍵はどこにあるのだろうか。昨今のフィットネス業界話題のサービスから紐解いていく。

利用しなくなった理由(MA)



参考①:「フィットネスクラブを利用しなくなった理由」
※oricon MEが2020年11月2-6日・インターネット調査
対象:3年以内にスポーツジムフィットネスクラブに通ったことがあり、1年以内に退会した18~84歳の男女1,176人が対象

施設の利用頻度



参考②:「フィットネスクラブの利用頻度」
※oricon MEが2020年11月2-6日・インターネット調査
対象:3年以内にスポーツジムフィットネスクラブに通ったことがあり、現在も利用している18~84歳の男女3,356人が対象

世界初、効果が見える光触媒コーティング

昨今話題になっているサービスの1つに世界初の光触媒コーティングがまずはある。これはフィットネスクラブの販促を行っているビックスが提供を開始したもので、光をエネルギーとして化学変化を起こす塗料を壁に塗布することにより菌やウイルスを瞬時に酸化させて感染力を奪う仕組みだ。また今回ビックスが提供するものは従来のものと違い、試薬を用いることでその場で効果測定が可能となっている。製品は特許を取得しており、既にホテルや大型商業施設で導入されており今後フィットネスクラブに広げていく予定だ。

Locarise TRAFFIC Signal

次いで豊田通商が提供する「Locarise TRAFFIC Signal(ローカライズ トラフィック シグナル)」も話題サービスの1つだ。これは天井などに、世界最高水準の3Dカメラセンサーを設置することで、リアルタイムで混雑状況がHP等に表示できる仕組みのサービスだ。これにより、ユーザーは密を回避しながら通うことができる。またカメラは性別や身長といった利用者属性のデータを得ることが可能でありマーケティングにも活用できることも魅力の1つとなっている。

今後の展望

以上から未だ続くコロナ禍に打ち勝つには“徹底すぎ”というレベルの感染症対策かもしれない。消毒や除菌だけではなく、最新技術の力も借りながら対策をどこまで尖らせていくのか。各フィットネスクラブの動きに今後も注目していきたい。



writer's voice
マーケティング・
ブランニンググループ

大山恭平
Oyamada Kyohei

正直コロナ禍というのを忘れる1日もありますが、感染症対策はやり過ぎるくらいに徹底しながら仕事もプライベートも充実させていきたいですね。